

## 第7回 大津市立幼稚園再編等検討委員会 議事録（要旨）

- 1 日時 令和8年2月12日（木）14時00分～16時00分
- 2 会場 平野コミュニティセンター 2階 第1会議室
- 3 出席者 委員 山縣委員長、中井副委員長、井上委員、大橋委員、狩野委員、小森委員、佐竹委員、  
中森委員、早藤委員  
（欠席）藤井委員  
事務局 こども未来部次長、こども・若者政策課長、課長補佐、  
政策推進係係長、政策推進係主査、政策推進係主任、  
幼保支援課長補佐、幼児教育指導監、保育指導監、市立幼稚園園長

4 傍聴者 なし

5 議事

- (1) 大津市立幼稚園再編等計画の策定について

6 会議録（要旨）

- (1) 議事

※議事の公開・非公開については、公開とされる。

委員長：まず最初に前回の振り返りを事務局からお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

～特になし～

委員長：次に、パブリックコメント案の第1章について、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

委員長：中身とは全く関係ないのだが、形式的なところで、3ページの図1の下に「就学前児童数と…」とタイトルがあり、グラフの上にも同じように「就学前児童数と…」と見出しが残ってしまっている。他にもそういったところがあるので修正してほしい。

また、4ページの図2で「中学校区別の人口推移」とあるが、これは平成26年を起点とした増減比ということだと思うので、表現を見直してほしい。

それから、23ページの表8は「新入園児の推移」となっているが、これを預かり保育の拡大の成果として見ていいのかどうか。タイトルと合っていない表現になっている。新入園児の事実が書いてあるので、ここに書いた方がいいのか、現状のところに書いた方がいいのか。あまり動かすのも大変なので、できればタイトルを変えてこの位置で処理できる

ような形にしてはどうか。

まとめは皆さんの意見が反映されていると思うので、中身の修正の話ではない。

委員：5ページの母親の就労状況について、今回調査が令和5年度だと思うが、前回と前々回が何年くらい前なのか知れたらより分かりやすいと思う。

あと、13ページの5行目のただし書きは、保育園を利用している人は含まない、希望している人は含むという意味なのか。

委員長：いずれも誤解を招かないような表現にしてほしいというご意見ということで、5ページのところは、それぞれに括弧を入れて年度を入れたらいいと思う。

事務局：調査年としては、一番新しいものが令和5年、その前が平成30年、そしてその前は平成25年である。

13ページの「調査対象者が市立幼稚園の利用者や希望者に限定したものではない」というのは、大津市民の方を全数調査ではなく無作為抽出して調査しており、無作為抽出した方が必ずしも幼稚園を利用されている方といったわけではなく、施設に入られていないご家庭もあれば、保育園を利用されている方もおられる、という意味合いで書かせてもらっている。少し表現を工夫させていただく。

委員長：その説明の方がとても分かりやすい。

今のようにいくつかの修正はあるが、本質的な修正ではないので、事務局の方に預けさせていただく。パブリックコメント前に修正版を配布していただくということをお願いしたいと思う。

続いて第2章（1）について、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

～特になし～

委員長：続いて第2章の（2）について、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

委員：29ページの「キ 特別な配慮を必要とする子ども達への対応」のところで、2行目から3行目にかけて「十分に検討する必要があります」と書いてあるが、大津市の幼稚園では特別な配慮を必要とする子どもへの教育にとっても力を入れていたりする。これだと今から何かやるというような表現になってしまっているの、「これまで同様に」といったような形に修正してもらいたいと思う。

委員長：これも事実に基づく指摘であると思う。例えば「実績を踏まえ引き続き検討する」というような、今までもやっているというような表現にしてもらえたらと思う。

- 委員：27ページの「守ってきた幼稚園教育」というところで、守るのではなく、幼稚園教育は常に新しいものを求めながら、国の方針に従ってとても頑張っている。守っていない。そこは少し語弊があるかなと思う。何もしないで前からのことが良いと思ってやってきたというふうにとられるのはとても残念なので、常に国の方針や新しいこと、課題に向かって積極的に取り組んできている幼稚園教育であると訂正していただくと有難い。そうすると下の文章も変わってくるかなと思う。
- 委員長：これまで頑張ってきたという事実はしっかり書いた方がいい。そんなふうに委員会は認めてくれているよねというふうに、実績をしっかり認めるという記載にしていればと思う。
- 委員：ア、イ、ウ…の「教師は」が主語になるところで、「提供していく必要があります」となっているが、「提供していきます」ではないのかなと思う。
- 委員長：全体で気になるところがあるのだが、今ご指摘があったところはそのままいいと思っている。理由は、主語が誰かということ。大津市を主語にすると決意事項として「いきます」、委員会が主語であれば「必要がある」からやってねとなる。市を主語にした方がいいのか、委員会を主語にした方がいいのか。
- 委員：主語が教師なので、少し読みにくいというか、他人事に聞こえないかなと思った。「教師は」なので「していきます」の方がしっくりくるかなと思う。
- 委員長：提案型にするか、市の決意表明のようなもので書くかで変わってくる。全部整えるのは難しいなと思う。
- 委員：例えば、力では「取り組んでいきます」と書いている。
- 委員長：両方で読めるものもあるし、どう見ても市で読めるものもあるし、委員会で読めるものもあるしでなかなか難しい。これを今一個一個検討するのは不可能に近いので、考え方だけ意見を聞いてみたい。主語は事務局的にはどうか。
- 事務局：確かに計画を作るときには委員長がおっしゃるように決意表明的な形でいくことが多い中で、このパブリックコメント案では、一般的に、教師はこういう必要がありますよねということを書いている形である。例えば、「一人一人の発達特性に応じた幼稚園教育」のところでは、一人一人の発達特性に応じたことをしようとする、教師はこんな必要がありますよねというのを一般的に書いたような形で、そういう表現になっている。
- 委員長：ここに関しては両方どちらでも読めるということ。
- 委員：大きなくくりで見ると、27ページの4行目に「本市の市立幼稚園としては」と、ここに主語的なものが入っている。
- 委員長：全部市を主語にしてしまうと、基本は100%全部やることになる。これは委員会で提案して、状況によっては市の方で変わることもあるという形で今まで議論してきたと思う。

そうすると、計画に大きく影響するようなところで市を主語にすると、そうしなければいけないとなるのは少し微妙ではないかと思う。これを踏まえてもらって、どうしても叶わないところについては状況によって変化していくのは仕方がないというのが、委員会の今までの進め方だったと思う。

委員：そこがとても難しくずっと悩んでいたのだが、委員会としてすべて責任を持つというのは少しおかしいと思う。ある一つの考え方を精査して、こういうことがいいんじゃないですかと提言をしたり提案をしたりしているのが委員会で、最終的には市が決めるものだと思う。委員会が言ったことを市が全てしてくれるわけではない。最終は行政が、この答申を受けて変わっていくこともあり得るので、委員会が表に出て全部やるんだというのではなく、少しその表現のニュアンスを考えた方がいいと思う。

委員：2ページの「計画を策定するものです」という表現も変えた方がいいのか。

委員長：「策定する必要があります」とすると少し緩やかになる。そうすると、これを踏まえてやってくださいねというニュアンスになる。

では、今までの議論を踏まえた形で、委員会の決定を市が最終的にはどう受けとめて判断するか。その際に委員会の意向をあまり軽視してもらったら困るということで、これは事務局の方で全体の文言を精査してもらって修正をお願いしたい。

委員：27ページの文章も少し違うかなというところがあるので、もう少し精査してもらえたらと思う。例えば、「イ遊びを通した学びを大切にする幼稚園教育」で同じようなことが何度も書いてあるようなところがあったり、社会的スキルの表現だったり、ここはもう少し整理できるかなと思う。

委員長：そのあたりも含めて、委員の意向があるので趣旨は変えないということで、より分かりやすく、適切な表現に見直してもらいたい。かといって専門用語ばかり使うのは、市民向けの報告書でもあるので、難しい言葉は避けながら、そういう形で全体的な修正になるがよろしくをお願いしたい。

続いて第2章の(3)について、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

文末の表現については、先程のように再検討、見直しということでお願いしたい。

続いて第2章(4)から(7)に当たる、32ページから35ページまでについて、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

これは、前までの基準から見方によっては大きく変わるというところを、委員の提案に基

づき整理していただいているところになる。

委員：少し矛盾するかもしれないが、読み方によっては、もしかすると小規模の園の方々は良くない保育をしていたのかと感じられるかもしれないというところがあって、本当は多い方がいいのだけれども、小さいからといって良くない保育をしてきたわけではなく、保育は頑張ってきた、保障しようと努力してきた、けれどもやはり多い方がいいんだという、小規模はだめという表現にならないようにしていただけたらと思う。

委員長：これも前回の委員会で意見が出ていたと認識している。小規模でも頑張っていて、一緒に工夫しながら取り組んできたという、そういう現場の方々とか利用された親子に対して否定的にならないような配慮をお願いしたいと思う。

新たな追加意見ということではなく、今まで出ていた意見で、十分表現できていなかった部分を追加いただくという形で修正をお願いできればと思う。

続いて、第2章(8)から(10)に当たる36ページから40ページについて、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

委員：大津幼稚園が138年程の歴史があるが、この計画ではなくなってしまうことになっている。大津幼稚園自身が、中央小学校の横にあり、部屋が拡大できるような立地条件ではない。歴史的には大津幼稚園は日本で3番目か4番目の幼稚園で、その名前がなくなってもいいのかと心苦しく思っている。市としてもそのあたりはどうなのだろうと思う。場所は今あるところでもなくてもいいが、検討する今後の課題の中に、なくなる園をどういうふうに残すのか、平野は平野で残すのかといった色々な議論があると思うが、新しい園に統合される場合の名称について、各園が持つ歴史的な背景をどう捉えたらいいのかなと考えている。事務局としてはどのように捉えているか教えてほしい。

事務局：今、事務局としてこうだという案はないが、今までみたいに、2つの園を1つにして名前を並べるとするのは、例えば3つの園が再編して並ぶとどうなのだろうとは思っている。全国の状況も見てみると、第1幼稚園、第2幼稚園みたいに付けられているところもある。新たな名前を考えて付けるのもなかなか難しいのかなという思いもある。大きい方の園に統合されるということであれば、そちらの園の名前を主たるものにしてやっていったらよいかといった案は市も出せると思うが、やはり保護者の方、地域の方、先生方の考え方もあって、今どうするのかとこの計画ではなかなか言いにくいところかなと思う。書けるとしたら、園の名前についても勘案しながらやっていくような形で答申をいただけたら、市として考えていくという形になるのかなと思う。

委員：近畿のそれぞれの園で歴史のある園はどこですかと聞いたところ、その当時のままの美し

い園舎で残っていて歴史を感じるところもあれば、どこどこ園とどこどこ園が統合して、でも今その園はないんですといったことを言われることもあったりすると、それぞれ地域の方や保護者の方の思いもあるので、ここで結論は出ないかもしれないが、丁寧に考えた方がいいのかなと思うところではある。

委員：名称までは考えにくいですが、各園が持つ歴史的な背景というところを期待したい。地域の方は絶対大津を残してほしいと言われると思う。大津市の幼稚園教育で何かを残してほしいと言ったら大津幼稚園の歴史。今の場所には無理だが、そういったものを何かの形で残してほしいと思う。

委員長：50ページの表のところで、まず仮称にしておくことと、名称については、歴史性や地域性や保護者の方と協議しながら決めてほしいというような脚注を付けてはどうか。もしこれでもハレーションが起こりそうだったら、合体して1つになって片方が吸収されたようにならないように、ABCとか仮称で記載して、欄外で補足しておくか。

委員：大津は県庁所在地で、小学校に大津小学校はないが、幼稚園はせっかく大津の名前が付いているところがあって、統合して一緒になって、今の大津幼稚園の場所では難しかったら、札幌時計台のような記念館的なところで残していくようなこともいいのかなと思った。名前は、そこが大津幼稚園になると、本当にやっている幼稚園の方がどうなのだろうとも思うが、なるとすると大津平野幼稚園とか、少し長くなるが、他にも長い名前のところがあるので、大津の中心部ということで大津という名前を残すのもいいのかなと思った。どの幼稚園も思い入れがあって、なくなることは本当に地元の者にとって悲しいことなので、そういうふうな名前の付け方も検討されてはどうかと思った。

委員長：脚注にコメントを入れて、慎重に良いものを考えていただくというふうにしたい。2つの名前を並べるという前例もあるし、ただこれが3つも4つも並ぶとどうかというところもある。

委員長：第2章をいくつかに分けてご議論いただいたが、2章についてはそのような形で全体を修正していただくということでお願いしたい。

次に、第3章について、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

委員：公立園同士の再編はいつごろから検討するのかがこれを読んで一番気になると思うのだが、そこは書かないということか。

事務局：現状だけお話をさせていただくと、まだ何も決まっていない。一方で、これまでに委員からもご意見があったとおり、ゆっくりしていいのかということはあるので、当然この計画ができ次第、保育園側とも一緒に協議を進めていかないといけないということになる

と思う。

委員：その関連で、こども・若者支援計画の中で、量の見込みが違うブロック割りで書いてあって、それと再編計画との重なりは、どこでどんなふうにかかされていくのか。園児数の推移や人口推移を見れば分かるのかなと思うが、それが今後の公立同士の話に絡まってくるのかなと思った。

事務局：量の見込みの方が7ブロックごとの算出しかしていないので、幼稚園の検討を7ブロックに対応するようにお示しする形かと思う。

委員：再編基準に達していないが、公立園同士の検討を行うという園について、その地域は待機児童があり、人口の減少の傾向から必要があるからという見通しがあると感じるが、このパブリックコメント案だけ見ると、再編基準に達していないのに突然現れてくることが、初めて見る人に不自然に感じるかなと思った。

事務局：こども・若者支援計画の量の見込みについて、原則として量の見込みが足りていないというのは、中部ブロックなどの保育園の部分である。そこについては、保育園を新設したりして対応していこうとしている。一方で、1号認定が足りていないところはなく、新しく幼稚園の枠を増やすことはない。例えば、公立の幼稚園と保育園を一緒にしても、幼稚園の枠も保育園の枠も増えるわけではない。こども・若者支援計画上は、新しい保育園を公募して対応していくという形をとっている。公立の幼保を一緒にして保育園の枠を増やすと、こども・若者支援計画との整合性が図れなくなる。

委員：公立同士のあり方を検討していくというのは、どのようなイメージか。

委員長：認定こども園化を指しているのでは？

事務局：認定こども園化も含めて検討していくことになる。

委員：認定こども園になれば保育園部分が増えると思っていたが、そうではないのか。

事務局：そうではない。

委員長：待機児童がない状況と、出生数があまり増えない現状から考えると枠の移動にしかすぎず、保護者の方がどの枠を選択するかになり、絶対数は変わらないという前提で考えないといけないと思う。

委員：幼稚園に行こうと思っていた方が、もう少し早くそこに通おうと思うということか。

委員：保護者にとって、認定こども園のメリットは、保育園枠と幼稚園枠を行き来できることである。幼稚園枠の方が、仕事がしたいと思ったときに、施設を変わずに、そのままの施設で保育園に行ける。逆に、保育園枠の方が仕事を辞めたとき、本来は保育園を辞める必要があるが、幼稚園枠に移動できる。それが最大のメリットで、人数的な枠はあまり変わらない。

委員：このパブリックコメント案だけでは何のために検討するのか分からず、ただ隣接している

から一緒にするみたいな表現であるから、今おっしゃった最大のメリットのためにとか、保護者のためにとか、社会的ニーズに応えるためにとかを記載してほしい。

委員：質的なもの、子ども自身が同じ教育・保育が受けられるメリットもある。

委員：少し細かいことになるので、そこまで記載しなくてもいいかもしれない。

委員：48ページと50ページが繋がっていると思う。48ページには各学区の検討内容が書かれていて、50ページの表にも※印が書かれている。勝手に検討委員会がこういうことをする必要があると捉えて出しているのではなく、市全体としてこれを考えないといけない。それをどう表記するか。表の下に再編等の方向性という項目を立ててみるのもいいかもしれない。

委員長：「公立保育園とのあり方を検討することも考えられる」と市に投げかけるという方法もある。市で考えてくださいと。その時に、基準に達していないのでやりませんという判断もあり得るし、基準に達していないが近くに公立保育園があるから認定こども園化もあり得る、それを考えてくださいという形の表現で、委員会として残すこともできる。こども園化もあり得るという立場にできる。時代状況で、おそらく5年後には、保護者の認識が変わってきている可能性が高いと感じる。周りが認定こども園化をしてきて、1号から2号に簡単に変わるんだと、施設変わらなくてもいいんだと、2号になるときにもそんなに長い時間働かなくても保育短時間認定があるのであればやってくださいと、という形で保護者の認識が変わる可能性がある。あまり限定的に書いて、委員会の意向はできるだけ尊重してくださいとなると、変えづらくなる。

委員：長等幼稚園の部分の「環境が素晴らしい」について、素晴らしいという形容詞はいらないのでは。環境が良いのは、他の幼稚園も全て素晴らしい。

委員長：同じようなところで、大津幼稚園のところ、読み方によっては、「歴史がある」だけを読んでもしまうと、他の園にも歴史がある。「最初の幼稚園という歴史」という意図だと思う。歴史や環境のことなどを考えたら、始まる前の部分に、色々共通の部分として、それぞれ与えられた環境の中で工夫しながら、教育・保育をされてきた、歴史を積み重ねてきましたというふうに、共通で表現できるところを一段落くらい書いて、更に、特徴や特筆すべきことを書いていきますというように個々の話に入っていくってはどうか。

委員：大津幼稚園は、大津の幼稚園の発祥の地という表現はどうか。

委員長：表現は内部で検討してもらいたい。

委員：50ページのところ、※印は必要か。なぜ再編しないのかの説明としては理解できるが、確定している訳でもないし、今後の検討課題みたいな形の方が良いと感じる。保育園とのあり方は、具体的に全然議論もされていないから、今後の方向性や検討事項のようしておくと思えると思う。

- 委員長 : 文末の表現を「考えられる」という表現にしてみるといいかもしれない。
- 事務局 : 50ページの※印のことを言っていた。幼稚園名の後ろに※印を付け注釈があるという表現は分かりやすいかもしれないが、※印だけが記載されている部分については分かりづらいと思う。
- 唐崎幼稚園と瀬田南幼稚園は再編基準に合致しないので、それぞれそのままの幼稚園名を記載した上で、※印を付ける。
- 逢坂幼稚園は再編基準に合致しているので、平野幼稚園としておきながら、公立保育園とのあり方も並行して考えないといけないことから、平野幼稚園としておきながら、※印を付ける。そして、欄外の表現の工夫が必要ということで理解をした。
- 委員長 : 公立保育園1園1園については議論できていないので、保育園名は出さずに、大枠のくくりで考えておく必要がある。
- 委員 : 表の上に文章を書いて、表を少し下に下げてはどうか。こういうことは検討しなくてはならない喫緊の課題であるとか、こういうことも考えられるというような形のものを記載してはどうか。
- 委員長 : 表の説明、見方を付けてもらう方向で修正をお願いしたい。
- 事務局 : 少し前に戻るが、園庭の評価や、歴史の評価などについて、確かにこの表現では、例えば再編される側の幼稚園の関係者の方が、うちだって良い園庭がある、うちだって歴史があるというふうに誤解をされる可能性がある。
- そこはこれからパブリックコメントとして見られた時に、そういうふうに思われる方がいらっしゃる可能性があるので、現状は皆さんに出していただいた意見を書いたが、少し事務局の方で表現を考えるので、そういう形でパブリックコメント案を修正させていただいてよろしいか。
- 委員長 : 先程そのように整理したつもりであるから、事務局の説明とおりで問題ない。
- 委員 : 表の前の部分、48～49ページで詳しく説明しているので、単純な表にしてしまってもいいのかなと感じた。
- 委員長 : ※印は残す、細かい部分としては第1段階や第2段階の検討タイミングは48～49ページに記載があるから消してしまうという感じか。
- 事務局 : 48～50を一体的に思っているが、市民の方が見られたとき、市民の方は50ページを見られる。表を前に持っていくのかという検討も言っていたが、密接に繋がって見ていただける表現を検討する。
- 委員長 : 表の上につけるリード文のようなもので、表の意味を説明していただくことでいいのでは。場合によっては、表が2ページに分かれてしまっても構わないのでは。
- 委員 : 表が見開きの2ページで見られるような見出しの付け方とかがあればいいと感じる。地域

ごとに表を分けるのもいいかもしれない。

委員長：全体に関心を持たれる市民もおられるかもしれないが、市民の方は自分の地域を一番気にされる。

委員：表15の見出しが一番下にあるのが少し見にくいと感じる。上にあると分かりやすいかもしれない。

委員長：大学の論文では、表は上、図は上か下に見出しを書くことが多い。

委員：部分部分もいいが、全体もあると良いと感じる。

委員長：二重で書くのも一つだと思う。誰目線で届けるか、一覧表は研究者目線ではいいと思う。市民目線では自分の地域が見たいと思う。

委員：委員会としては大津市全体としての形を考えて決めるから、一覧表の方が良いと思う。自分のところがどうなるかを見る人のために作るものではない方が、資料としては良いと思う。それが検討委員会の想いが伝わる方法ではないかと思う。

委員長：委員会目線であればそうなると思う。

委員：一般の家庭の人が、このパブリックコメント案を全部見るかという見ないと思う。自分のところだけを見る。自分のところ、自分の子どもの環境がどうかと見る。大津市がどうしたいかの目標としてこうなった、こういう理由があってこうなったという理由をこの表から読み取っていただきたいと思う。

委員：47～50ページについて、まず地図がある、次に表がある、表の中にアやイを振っておく、アの中学校区は後ろに細かいことが書いてある、という流れが良いのでは。施設の位置図と表を一緒に見られるような形にすると良いのでは。

事務局：分かりやすい資料にしたいと考えている。文章を先にして表を後ろにした理由について補足をすると、表を先にすると、機械的に人数だけで決めたというように思われるかもしれない。そうならないように、中学校区ごとにしっかり議論した結果がこれですという方が良いかと思いこの形にしている。

委員：でも、みんな表を先に見てしまう。幼稚園の名前が出ているので、とっつきやすい。中学校区と書かれていても、幼稚園のことを考えているのに分かりにくいと感じる。

委員：検討委員の想いのところを前に書いてもらっているが、自分の幼稚園の学区がどの中学校区に該当するのかが分からない市民の方もおられると思う。その部分が分かるように表現すると良いと思う。

委員長：見出しをしっかりと付けて、工夫をすること。地図があるところは①市内の教育・保育施設の配置、2つ目に50ページを持ってきて②検討結果として、3つ目に③検討経過と概要などにして表現する。50ページの表には、中学校区との関係を分かりやすくするという形で工夫をすること。47～50ページに3つのことが書いているのに、見出しが一つし

かないのも分かりづらいと感じる。

それでは、第4章実行計画について、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：これはモデルが示されているだけで、実際の時に市の方で行ってもらうことになる。

委員長：全体を通して意見等あればお願いします。

委員：是非、大津市に子ども達を連れて住みたいと思ってもらえるような市になるように頑張っていたきたい。なくなるだけでなく、呼び込むという視点も持ってもらいたい。

委員：49ページの文末「～こととする」という表現は、検討委員会からの提案という形で良かったか。

委員長：文末については委員会の考え方であるという形で整えてもらう。

今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

事務局：今後のスケジュールについて説明

委員長：パブリックコメントの手法としては、最近の行政が行う一般的な手順だと思う。

(2) 閉会

以上